

平成29年7月3日

都知事 小池 百合子 殿

DOCOMOMO Japan 代表

松隈 洋



東京都中央卸売市場築地市場 価値表明書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本会は、20世紀の建築・環境遺産の価値を認め、その保全を訴えることを目的とする、国際的な非政府組織 DOCOMOMO (Documentation and Conservation of buildings, sites and neighborhoods of modern movement) の日本支部です。

東京都中央卸売市場築地市場(旧・東京市中央卸売市場築地本場^{ほんじょう})の建物は、下記のように、生鮮食料品の安全な供給を図ることを意図した、当時の先進世界における最大規模かつ中央卸売市場であっただけではなく、鉄骨鉄筋コンクリート造や鉄骨造の構造美を生かしたデザインでつくられていることに、高い建築史的価値が認められるものです。そのような建築史的重要性から、当該施設は、本会が2003年に選定した、日本を代表する、歴史的に価値があるモダニズム建築100選の1つに選ばれております。

6月20日の記者会見で知事がおっしゃられておりましたように、「築地市場には都民ならず、日本が育って守ってきた築地の伝統やブランド」があり、「東京都の莫大な資産」であります。ドコモモジャパンでは、2010年に築地市場を第1会場として国際会議「2010 DOCOMOMO ISC Technology Seminar METAL IN MODERN MOVEMENT ARCHITECTURE」を開催しました。本セミナーには、ドコモモ代表アナ・トストエス氏のポルトガルをはじめ、デンマーク、アメリカ、ドイツ、フィンランドなど各国から建築関係者が来日しました。築地市場の建物を見学しながら、近代の建築における金属の使用と技術、そして歴史的価値について、各国の事例を元に意見交換を行いました。

本会としましては、築地市場の建築が実現させた技術的・建築史的な価値について、今一度、正確な評価書の作成が必要だと判断し、価値表明書を作成いたしました。以下の内容をご確認いただきまして、新たな保存活用の可能性について慎重にご検討ください。

なお、本会は本建築の保存活用に関して、建築の専門家としての学術的な支援など、できる限りのご協力をさせていただく所存であることを申し添えます。

今後とも、この優れた由緒ある歴史的な建築と環境の保全に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

敬具

築地市場についての見解

東京都中央卸売市場築地市場（旧・東京市中央卸売市場築地本場^{ほんじょう}）の建物は、当時の世界における最大規模の中央卸売市場として昭和 9（1934）年に竣工しました。敷地の面積は 195,891 m²、東京市の中央卸売市場の本場として、両国駅近くにつくられた江東分場（1927）、秋葉原駅横につくられた神田分場（1928）とともに、魚類・青果を中心とする、安全な生鮮食料品の円滑な供給を図る施設として建設されました。

中央卸売市場が設けられるきっかけは、1923（大正 12）年 3 月公布の中央卸売市場法により、6 大都市での設置が求められたことにあります。東京市は、その建設を同年 9 月 1 日に起きた関東地震の震災復興事業に組み入れることにし、復興事業を速やかに進めるべく既存の営繕組織を拡大改組して大正 13 年につくられた臨時建築局（のち建築局、土木局建築課）に、市場建設課（のち市場建設掛）を設けました。

日本では前例のない大規模施設ということで、東京市では技師 3 名を欧米に派遣して調査し、その成果を帰国後に東京市商工課の編纂で『欧米卸売市場概覧』2 冊（1925, 26 年）をまとめました。あわせて、ドイツの文献 *Märkte und Markthallen für Lebensmittel, Band I und II* (Richard Schachner, 1914) を『食料品市場及市場館』全 2 巻 [1925] として翻訳・刊行するなど、研究を重ねました。しかし、日本では和洋中華という 3 種類の料理があるので、食材が多種多様で、そのまま適用できるモデルを欧米に見つけられず、複数の欧米市場を参照しつつも、独自に計画することになりました。その設計の中心になったのは、東京市技師の小野二郎（東京帝国大学建築学科 1914 卒）と甲野繁夫（同前 1924 卒）です。

敷地は旧海軍用地で、埋め立てなどを含めて整地したうえで、鉄道と舟運を利用して生鮮食品を搬入するため、敷地の西から南の外周に、2,170m あまりの鉄道引込線をカーブさせて敷設するとともに、その南隣に 3,000 トン級と 500 トン級の船舶用の 2 つの棧橋と 9 つの小棧橋などを設置しました。

建物は、引き込み線に沿って曲線状に配され、外側から第一卸売人売場および事務所、その内側に第二卸売人売場、さらにその内側に仲買人売場が並行して並び、その内側の買荷保管所を経て、買荷を発送する仕組みになっていました。つまり、外周の交通機関から搬入された生鮮食料品が、中央広場に向かって、卸売・仲買を経て運び出されるようになっていたわけです。その他に冷蔵庫や製氷工場、塩干物倉庫、バナナ発酵室・芋洗場、鳥仕分場、淡水魚生け簀、付属商売場及び食堂、牛馬繫留所、ポンプ室、塵芥取扱場などの施設が付属していました。

卸売人売場は、鉄骨鉄筋コンクリート造 2 階建て一部 3 階建ての主棟の内側に鉄骨架構を添わせた建物で、外周の鉄道線路に沿ってカーブしています。鉄骨鉄筋コンクリート造部分の廊下側では、その架構がカーブしながら続いていくさまを見せるようにデザインされています。この架構で特徴的なのは、柱と梁の接合部を、内部の鉄骨の形状に対応してアーチ状

にしていることで、その架構が建物の湾曲に沿ってつながるさまは、構造そのものを表現に生かすという、当時における最先端のデザイン手法を示すものでした。

また、仲買人売場は、2連の鉄骨むき出しの大架構で覆われています。その鉄骨架構は山形断面で、スパンは29mで、高さは頂部の鉄骨下端までが12mあり、それがカーブしながら約100mも続く大空間は壮観で、当時の日本における最大級の鉄骨架構でもありました。

上記の建物の主要部分は現在も残っています。

旧・東京市中央卸売市場築地本場の建築史的価値は以下の3点に認められます。

- 1) 竣工時には、世界でも最大級かつ最新鋭の市場で、大量の生鮮食料品を迅速に入出荷できるよう、配置計画が工夫されていたこと
- 2) 昭和戦前期の日本における最大規模の鉄骨造建築という点で技術史的価値が高いだけでなく、カーブしながら続く鉄骨の大架構による稀有の空間構成をつくり出していること、そして卸売人売場の廊下の架構をそのまま見せるデザインとともに、当時の最先端のデザイン手法を示すものでもあること
- 3) 近隣の勝鬨橋とともに、鉄骨造によるユニークな水辺景観をつくり出していること

まず、1) ですが、日本に前例のない施設であったために、欧米の中央卸売市場について研究しつつ、和洋中華という多様な食材を扱う最大規模の施設として、鉄道や船による食材の搬入の際に、速やかに荷下ろしして卸売にかけられるように、内側に向かって整備された卸売・仲買の動線計画、そして買い付けた食材の搬出に至る経路を効率よくまとめていること、そして衛生面の配慮から大きな冷蔵施設が設置されたことが評価されます。

2) では、まず卸売人売場の鉄骨鉄筋コンクリート造の躯体がカーブしながら連続するさまをそのまま見せていること、また、仲買人売場の上部を覆うかたちでカーブしながら連続する鉄骨の大架構を架して、壮大な鉄骨むき出しの空間をつくりだしたことが評価されます。その大架構にはハイサイドライトが連続して続き、その空間や架構の壮大さを際立たせています。構造をそのまま見せてデザイン要素にするのは、20世紀の建築の主流だったモダニズムの特徴のひとつで、この築地本場の大架構は、日本におけるその初期の好例といえます。

3) 近隣の勝鬨橋は鉄骨橋で、しかも中央部が開閉できる橋として知られ、土木史上注目すべきものです。旧・東京中央卸売市場の鉄骨架構は、その近くにあって、そのあたりの水辺の景観の重要な要素であるだけでなく、勝鬨橋とともに、鉄骨造による近代的な都市景観をつくりだしていることが注目されます。このような鉄骨の大架構の重なりによる景観はユニークで、東京の水辺景観を彩る貴重な存在といえます。

以上のような貴重な建築文化遺産としての意味をご理解いただき、後世に継承していただけるような、深甚なるご配慮を賜りたいと願っております。